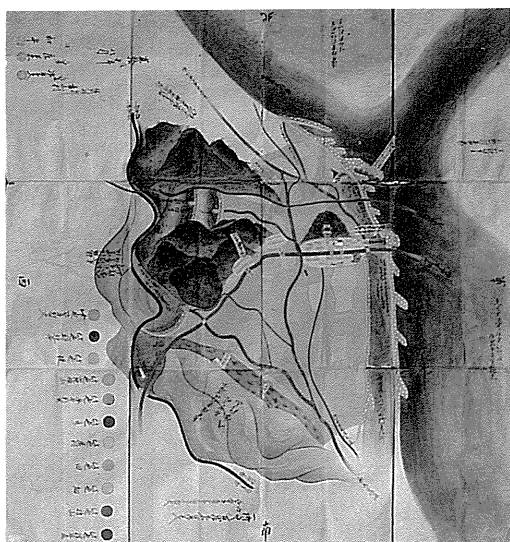


# 『青山地区』をたずねて

青山地区は、夢前川下流の西にある稲岡山を中心に開けた地域である。「青山」の地名は、稲岡神社のある稲岡山が神域で木を伐採しなかったため青山と称したという。青山地区は、『播磨国風土記』によると東の手野などとともに「漢部里」に属し、その後、余戸郷に属した（『倭名抄』10世紀）。『峯相記』に、宝治2年（1248）後嵯峨院が「余部庄」を円教寺に寄付したとある。『円教寺文書』にも天文12年（1543）書写山明王院領「青山村之内宗恵寺分」、永祿12年（1569）書写山十地坊・十妙院領「青山村二町田散在分等」の安堵状があり、円教寺との関係が深い。

江戸時代は、慶長5年（1600）姫路藩領（池田氏～本多氏）、寛永3年（1626）龍野藩領（小笠原氏）、同9年幕府領、同14年龍野藩領（京極氏）、明暦4年（1658）幕府領、延享元年（1744）大坂城代堀田氏領（山形藩）、延享3年一橋家領とめまぐるしく領主が変遷し明治に至った。

現在の青山地区は、人口増加にともない昭和59年4月白鳥校区から分離独立して青山校区として生まれ、古い町並みを残すとともに、姫路科学館・自然観察の森・星の子館・こどもの館など施設の充実と自然との調和を保ちながらの町づくりをめざして発展している。



▲旧山陽道

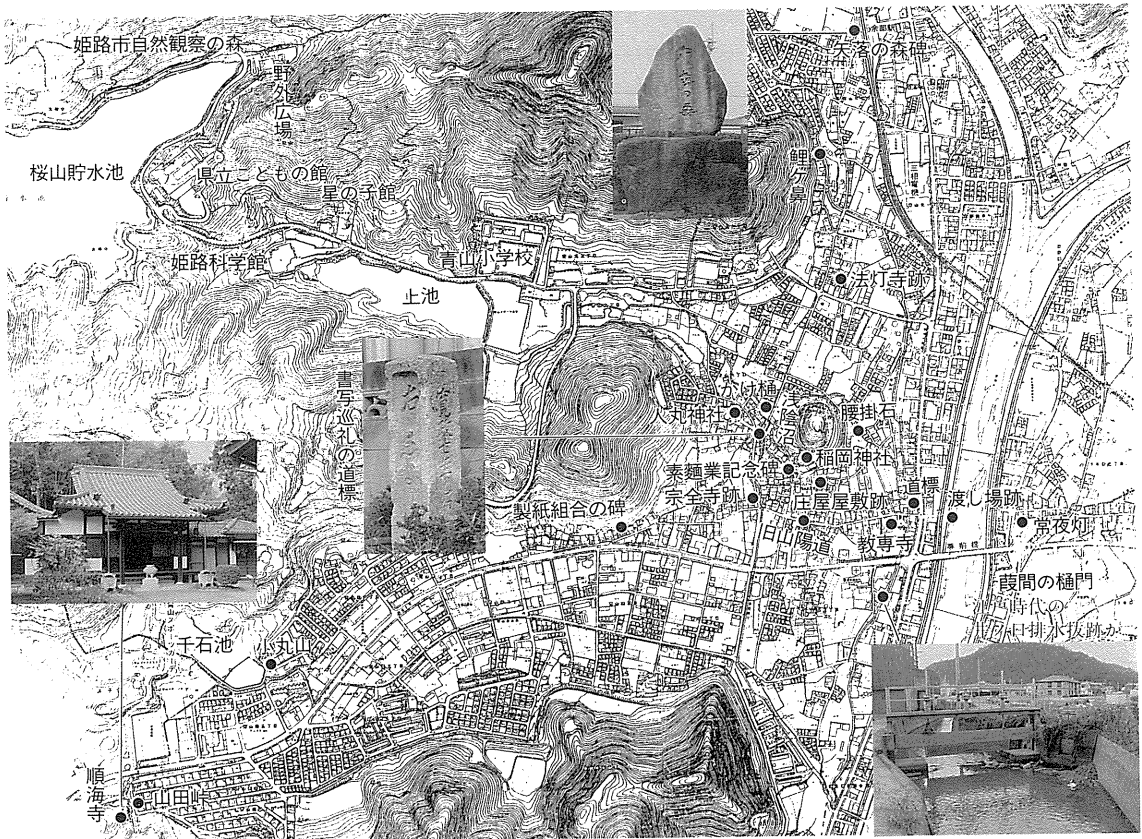
旧山陽道の道標  
(市指定文化財)

◀寛政10年(1798)の  
青山村絵図



**旧山陽道** 西国街道・中国路ともいう。国道2号線夢前橋西交差点から国道29号線を北へ100メートルほどいくと左側に道標があり、ここから西へほぼ青山の中央を東西に旧山陽道が通り、現在も古い建物が所々残っている。街道沿いに樹齢200年という松があり、若宮の松と呼ばれている。江戸時代、青山村には継飛脚番所があり、「大坂・長崎御状箱」を継送した。

**道標** 国道29号線から旧山陽道に入る所にある。安政2年（1855）の造立で、高さ2.13メートルの市内最大級の大きさである。材質は花崗岩で五角柱のめずらしい形をしている。道標には、右（北）は因州・伯州・作州・雲州方面、左（西）は備前・九州方面、東は姫路・大坂・京・江戸とあり、さらに主要地までの距離を表示している。施主は伯耆国倉吉西町の小松専太郎で、世話人は下手野村の大野丈助と姫路大国（黒）町の高井利平とある。市指定文化財（昭和52年3月4日）。



**矢落の森** 天正4年(1576)の『播磨府中めぐり』に、神功皇后伝説の3本の矢のうち、二の矢が「青山村の大石にあたり、神に祠り、射目崎の神というか」とある。この地が青山北の字「矢落ノ森」であるとして、余部駅の西に石碑が建てられている。

**法灯寺跡** 青山北公民館の北にあり、今は「遠山の地蔵さん」と呼ばれている。ここは嘉吉2年(1442)大田垣氏が建立し、法光上人が開基の法灯寺の跡と伝えられる。本尊は大日如来で、以前は各地から多くの参詣者があったという。

**青山のかけ樋** 稲岡山の西にある江戸時代の石造交差水路。青山小学校南の上池・下池(今はなし)から引いた水は、写真の地では東西に流れているが、土地の高低から南に流すことが困難なため、細い石造の水路を設け、北の方から青山川の水を引いている。

**浅陰沼** 稲岡神社北西の山麓はかつては沼であった。今埋め立てられて児童公園の一部になっている。「播陽古跡便覧」(寛延3年)には「浅陰ノ沢」とある。柿本人麻呂の歌や伝説が残っている。

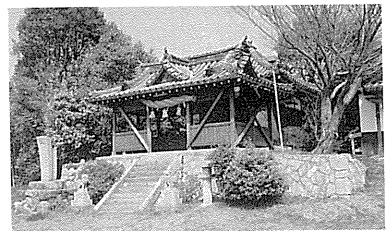
**人丸神社** 稲岡神社の西の小丘にある神社で柿本人麻呂を祀っている。本殿は方形造りの宝珠を載せた珍しい屋根である。坂下の立江地藏尊は、徳島県小松島市の四国第19番霊場立江寺の延命地藏菩薩「立江のお地藏さん」を祀る。古くはないが、初め旧山陽道筋にあったのを今の地に祀る。



▲法灯寺跡



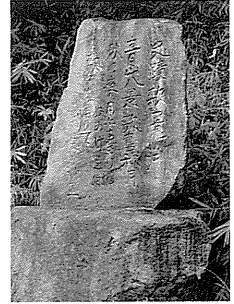
▲かけ樋



▲人丸神社

**和泉式部の腰掛石** 稲岡山の東麓辺はかつて夢前川の流れがぶつかり淵になっていたところで、天正4年(1576)の『播州府中記』に、「柿本人丸」とゆかりのある地で「歌書が淵」とよばれたとある。また、和泉式部が「歌書が淵」にあった大きな岩に腰掛けて歌を詠んだという。現在東麓に青山八景の一つを歌った歌碑があるが、それが腰掛石と伝えられている。

腰掛石▶  
青山八景の  
一つ



**教専寺** 真宗の寺院で旧山陽道に面している。もと青山の西の山麓にあったというが、創建の時期は不明。享保11年(1726)現在地に移した。境内の松は、享保年中に本堂建立記念として植えられ、「葉わけの松」と名づけたが、いつしか山陽道を往来する人が妙なる松に気づいてふり返るところから「みかえりの松」と呼ばれるようになった。今の松は2代目。



▲教専寺

**旧青山村庄屋敷跡** 旧山陽道と稲岡山の間にある。青山村庄屋の菅原家は菅家の流れをくむと伝えられ、中世は赤松氏に従って活躍。江戸時代、庄屋として青山村の継飛脚番所も差配した。慶長6年の青山村検地帳などが残っている。幕末には、屋敷内に寺小屋「廣観覺」を開設した。庭内にくすのきの保存樹がある。



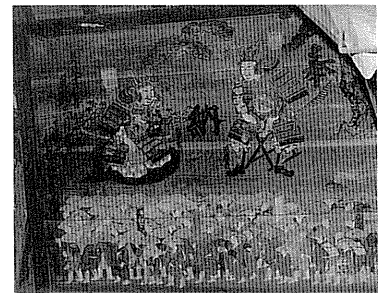
▲庄屋敷跡

**稲岡神社** 稲岡山の南麓にある。稲岡山は、『播磨国風土記』の14の丘の一つである稲丘(稲牟礼丘)に比定されている。祭神は「社記」に豊受姫大神・射目崎明神とあり、『播磨国内鎮守大小明神社記』には稲丘太神・射目崎明神と記載。「社記」の豊受姫大神と稲丘太神は同神としている。ともに稲の霊に関係した神である。射目崎明神は、『日本三代実録』貞観10年(868)の条にみえる国史見在神である。初め当社より北方に祀られていたが洪水で流され、のち稲岡神社に合祀したという。境内北東にある稲荷社の狛犬は、寛政2年(1790)のもので、丸い目や前方に突き出した丸い胸など全体も丸みを帯びておもしろい。



▲稲岡神社

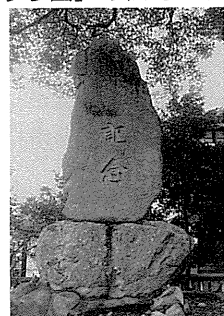
**「お蔭参り図」の絵馬** 稲岡神社の旧本殿を転用した絵馬殿にある。絵馬の下部に下手野村の老若男女や子ども・赤子を背負った母親なども加わった伊勢参り一行が描かれている。中央は武者2人、上部は青山の遠景が描かれている。文政13年(1830)の奉納で、県指定文化財(昭和60年3月26日)。ほかに、延宝3年(1675)の神馬図・天和2年(1682)の稲岡神社と境内図・同3年の合戦の図など江戸時代中期以後の絵馬が数多くある。



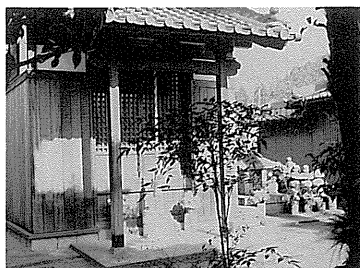
▲「お蔭参り図」の絵馬

**素麺業肇基記念碑** 稲岡神社境内にある。昭和初期まで盛んであった素麺業の昔をしのぶ碑。素麺は明治以前から姫路各所でも製造していたが、天保12年(1841)青山に生まれた永澤治三郎は、明治20年代後半頃に農業の副業として素麺製造に取り組み、やがて近隣に広まっていった。のち素麺組合が成立し、治三郎は組合長となった。また、素麺業と関連して青山北部に水車を動力とした製粉業が発達し、素麺を詰める箱製造業を営む家もあった。

素麺業肇基  
記念碑 ▶

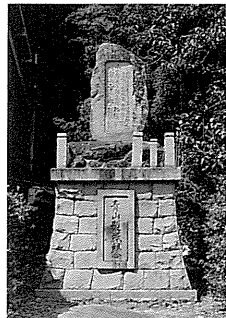


**宗全寺跡** 稲岡神社から旧山陽道を西に行くと、道の北側の民家の裏に薬師堂とその脇に石仏や小さな五輪塔がいくつか集め置かれている。この地が宗全寺跡で、字「塔の内」は五重の塔があった場所と伝えられる。この寺は嘉吉の乱(1441)後、播磨国守護となった山名宗全(持豊)が戦死した一族や家臣の菩提を弔うために建立した寺であるという。『播州続古拾考』に「下手野村北山を瓦山といふハ青山堂をたてし時、瓦をやきしと云」と記されている。



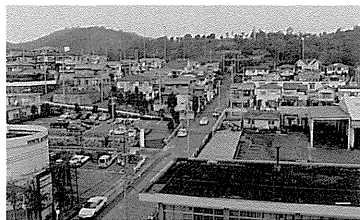
▲宗全寺跡

**製紙組合の碑** 青山の西、旧山陽道から国道2号線に出る少し手前にある。『兵庫県物産調査書』によると、紙の製法は、明治17年(1884)青山村の山口重太郎が大阪から伝え、次第に旧余部村・高岡村・菅野村に広まったとある。この碑は明治中期～大正にかけて青山の東の内川と西の谷川に沿って和紙の製造が盛んになり、製紙の創始者で組合の人々の世話をした功のあった米田勝松をたたえたもの。石碑には明治33年、子爵品川弥次郎から贈られた「いたつきを積める功は此の紙の雪の表に顕れにけり」という和歌が刻まれている。



製紙組合の碑▶

**小丸山** 青山の西方で千石池の東部の丘。今は宅地化してしまっただが、斜面には小規模な古墳が群集していた。『日本書紀』雄略天皇13年の項に、「播磨国御井隈の人文石小磨呂は乱暴で掠奪して法に従わなかったため、天皇より遣わされた小野大樹に討たれた」という話があり、「御井隈」はこの地だと推定されている。丘上には嘉吉の乱後、播磨を領有した山名宗全の屋敷があったと伝えられている。また、永禄12年(1569)に龍野の赤松政秀と姫路の黒田職隆・孝高が戦った古戦場跡でもある。



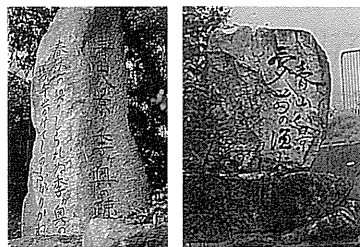
▲宅地化した小丸山付近

**山田峠(笹峠)** バス停「青山ゴルフ場前」回りから南へ太子町につづく道がある。この峠道は旧山陽道の名残りである。峠の上に順海寺があり、旅人はこの境内で一休みしながら青山を望み、姫路に別れを告げたのであろう。



▲山田峠(笹峠)

**青山八景** 青山の風光明媚な地を八か所選び、「南海漂船・歌書秋月・季奥疎鴈・遠地風鐘・義舎夜雨・夢前漁火・錦戸春雪・山社晴風」と題して漢詩と和歌で詠んでいる。姫路藩主榊原政邦の作と伝えられる。稲岡神社に残る宝永3年(1706)の八景の絵馬から考えると、政邦が宝永2年7月に姫路に入部して間なしの作品といえる。それぞれの地に写真のような歌碑が建てられている。



▲季奥疎鴈 ▲夢前漁火  
青山八景から

**夢前川** 『播磨鑑』によると、紀貫之の歌に「ゆめさき川」とあり、古くから呼称されてきた川であるが、その川筋については荒川地区を通過した川であったなど諸説に分かれ明確でない。姫路藩主榊原忠次が、明暦元年(1655)御立の横関に堰を築き、それまで御立から今宿に流れていた主流を直接青山に導いて現在の夢前川筋とした。

夢前川渡し場あたり▶

